令和元年　１１　月　１３　日

平成３１(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立若松原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，平成３１(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問紙）

中学校　第２学年　　（国語，社会，数学，理科，英語，質問紙）

4　本校の実施状況

第２学年	国語	２０６人	社会	２０６人	数学　２０５人
	理科	２０５人	英語	２０５人	

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

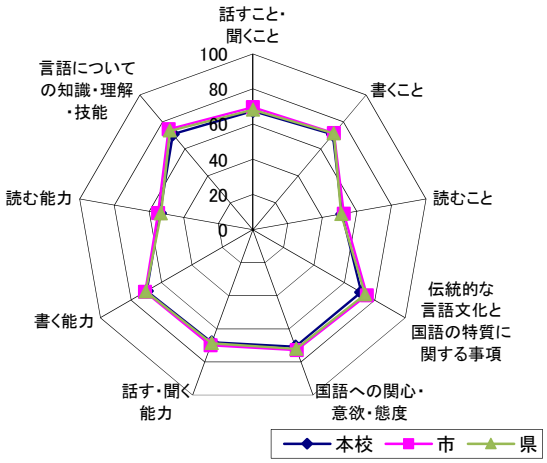
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立若松原中学校 第２学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと･聞くこと	67.6	69.6	68.2
	書くこと	70.8	71.7	71.5
	読むこと	51.5	52.6	51.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.1	74.8	73.7
観点	国語への関心･意欲･態度	70.7	72.8	72.1
	話す･聞く能力	68.3	69.9	68.7
	書く能力	69.8	70.7	70.3
	読む能力	53.8	54.7	53.1
	言語についての知識･理解･技能	70.9	74.5	73.5



★指導の工夫と改善

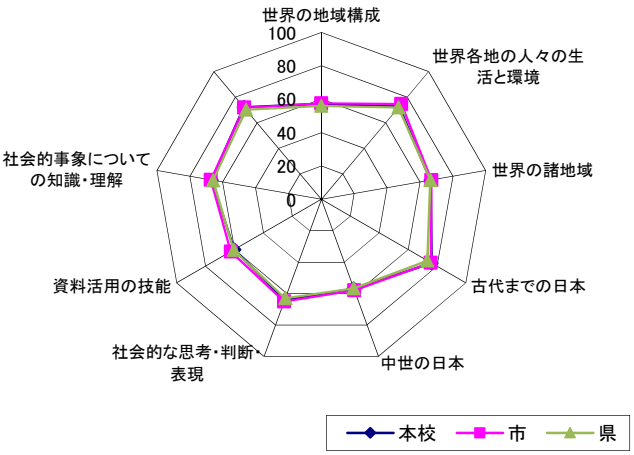
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	･話すこと･聞くことの平均正答率は67.6%(市との差−2.0)で，やや低い。 ○話の内容を正確に聞き取る問題の正答率は91.7%で十分身についている。定期的に聞き取りテストを実施してきた成果が表れた。 ●話し方の工夫を捉える問題の正答率は45.6%(市との差−3.3ポイント)で，課題である。	･今後も継続して，聞き取りテストを実施する。 ･他教科とも連携し，発表や説明の機会を増やす。言語活動を取り入れた授業を継続してもらう。 ･学級に実施を依頼している1分間スピーチが定着し，話すことに対する自信を深めている。 ･「伝わりやすい話し方の工夫」を授業に取り入れ，生徒自身が考える機会を作る。
書くこと	･書くことの平均正答率は70.8%(市との差−0.9)で，概ね満足できる状況である。 ○作文問題の無回答率は10.7%(市との差−1.4)で，何も書けないという生徒は減少している。授業で短作文を定期的に取り入れたり，テストで作文を出題したりしてきた成果が表れた。	･300字程度の短作文を定期的に取り入れ，テストにも出題してきたことが効果を上げ，全く書けないという生徒が減少し，書くことに対する苦手意識も解消してきた。今後も継続して，書かせる指導をしていく。 ･国語科では小学校とも連携し，書くことを共通課題として力を入れ取り組んできた。今後も小中一貫での取組を継続していく。
読むこと	･読むことの平均正答率は51.5%(市との差−1.1)で，十分身についていない状況であった。 ○文章の展開に即して内容を捉える問題の平均正答率は74.8%(市との差+0.2)で，十分満足できる。文章を読み取り，理解させる授業実践が成果として表れた。 ●文章の構成や展開を捉える問題の平均正答率は，29.1%(市との差−2.1)で，課題である。	･国語の授業では，ワークシートや発問を工夫して丁寧な読み取りを心がけた。その成果として文章の内容や表現の特徴を理解することができるようになった。 ･説明文を授業で扱う際には，細部の内容理解にとどまることなく，全体を俯瞰させ構成を捉えさせる。学んだ構成を使って，意見文を書かせることで，よりよい文章の組み立てを体験的に理解させる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	･伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の平均正答率は71.1%(市との差−3.7)でやや課題である。 ○故事成語の理解は正答率87.4%(市との差+1.0)と良好である。ことわざや故事成語を日替わりで掲示したことが，関心を高めた。 ●漢字の読み，平均正答率83.1%(市との差−4.7)，書き，平均正答率48.9%(市との差−7.4)と課題である。	･ことわざや故事成語，語句の意味などを廊下に日替わりで廊下に掲示してきた結果，語句に対する関心が高まり，理解にもつながった。今後も継続していく。 ･漢字の読み書きは，以前からの課題であり，小学校と協力し，あらゆる教育活動の場面で漢字を使わせるように取り組んでいる。漢字の読み書きテストを国語の授業だけでなく，学校の取組として実施し，できなければ復習させるようにしている。

宇都宮市立若松原中学校 第２学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	57.3	57.6	56.0
	世界各地の人々の生活と環境	72.7	74.6	71.9
	世界の諸地域	66.5	67.0	66.3
	古代までの日本	76.2	75.7	73.3
	中世の日本	56.8	57.9	56.7
観点	#REF!	64.1	65.0	63.0
	社会的な思考・判断・表現	60.2	62.5	60.5
	資料活用の技能	66.9	67.2	65.9
	社会的事象についての知識・理解	72.1	71.8	70.1



★指導の工夫と改善

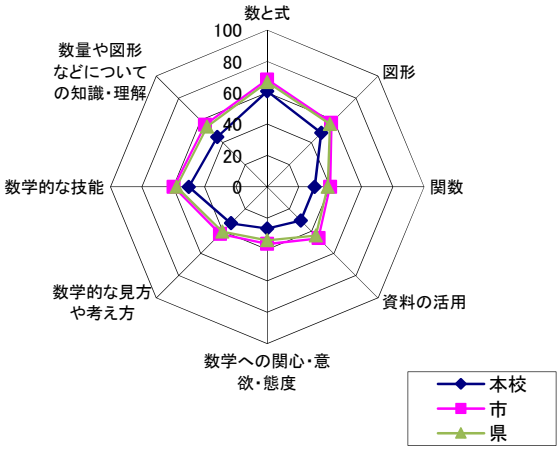
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	・平均正答率は，市の平均とほぼ同じで，県の平均を上回っている。 ○世界の地域区分の正答率は県平均を大きく上回っている。世界地誌の学習において，学習の始めに白地図を必ず用いて，位置と地名の確認をしたことが要因として考えられる。 ●地図中の緯度経度の読み取りが県の平均より約3ポイント下回っており，課題として残った。	・今後も，白地図を用いて，直接書き込ませるなどして，自然環境と絡めさせながら，地誌的分野の学習を進めていきたい。 ・本初子午線と日付変更線の位置を正しく理解しておらず，東経・西経を読み取ることができなかったことが要因として考えられる。時差の学習と絡めさせ，白地図に書き込ませるなど，地図の読み取り方の指導を工夫していきたい。
世界各地の人々の生活と環境	・平均正答率は，県の平均をやや上回っていて，市の平均を下回っている。 ○世界の宗教分布と特色については，県平均を上回っている。宗教の学習において，実際の生活の様子を動画資料などを用いながら学習を進めたことが要因として考えられる。 ●雨温図をもとに，世界各地の気候帯を読み取ることが，県の平均よりやや下回っており，課題として残った。	・今後も，世界の人々の生活の様子については，動画資料を用いて，実際の生活の様子を目にすることで，イメージを持たせていく指導を継続していきたい。 ・雨温図と世界各地の気候を結び付けることができなかったことが要因として考えられる。気候区分における気候の特徴と，その気候の雨温図を絡めながら，学習を進めていきたい。雨温図の読み取りは，比較的できる生徒が多いので，雨温図から，地域を判断できるような指導を工夫していきたい。
世界の諸地域	・平均正答率は，市の平均とほぼ同じで，県の平均を上回っている。 ○オーストラリアの様子について，適切な学習計画を立てて探究することについて，県平均を大きく上回っている。日頃の授業において，様々なデータを読み取らせていることが要因として考えられる。 ●ヨーロッパ州の農業の特色について，複数の資料をもとに判断することが，県の平均を大きく下回っており，課題として残った。	・今後も，さまざまな統計資料を用いて，読み取らせる作業を授業において，継続して取り入れていきたい。 ・統計資料の読み取りは比較的できている生徒が多いが，複数の資料を比較して分析する作業を苦手としている生徒が多いと感じる。今後は，複数の資料を用いて，比較・分析させる活動を多く取り入れていきたい。
古代までの日本	・平均正答率は，市の平均とほぼ同じで，県の平均を上回っている。 ○写真資料から基礎的・基本的内容の定着を測る問題においては高い正答率を得ている。資料を多く活用しながら授業を進めている成果であると考えられる。 ●年表中の期間内に行われた出来事を問う問題の正答率が低いことから前後の出来事から関連付けて答えを推測する能力において課題がある。	・今後も資料を活用した授業展開を行い，定期テストなどでも資料を用いた問題を多く取り入れていきたい。 ・定期テストなどに年表問題を取り入れ，類似問題を解く回数を増やしたい。
中世の日本	・平均正答率は，市の平均とほぼ同じで，県の平均を上回っている。 ○一問一答形式の正答率が高い。定期テストにおいてワークや単元プリントの知識問題に重点を置いている成果だと考えられる。 ●時代順に出来事を並び替える問題に課題がある。授業において起こった出来事とその背景を物語に見立てて理解させることを意識したい。 ●語句指定の記述問題に課題がある。授業中からまとめる力の向上を意識していきたい。	・今後も知識を問う問題を多用し，基礎的・基本的な知識の定着を図りたい。 ・記述問題をワークシートに多く取り入れ，語句指定への対応などの解き方を指導していきたい。

宇都宮市立若松原中学校 第２学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	60.9	68.4	66.8
	図形	48.6	57.8	56.5
	関数	30.2	40.1	38.5
	資料の活用	30.2	46.3	43.8
観点	数学への関心・意欲・態度	26.6	36.4	34.1
	数学的な見方や考え方	32.7	42.5	40.5
	数学的な技能	50.0	59.6	57.9
	数量や図形などについての知識・理解	45.1	56.0	54.3



★指導の工夫と改善

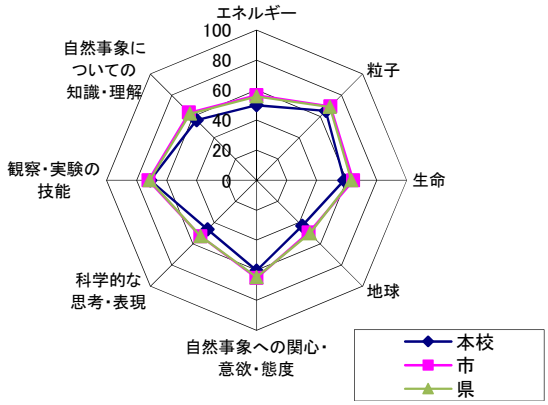
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	・平均正答率は市よりも7.5ポイント低く，県よりも5.9ポイント低い。 ○乗法の計算や同類項をまとめること，数量の関係が表していることに関しては，正答率が市や県と同程度である。 ●計算に負の数が入っている場合の符号の間違いが多い。1次方程式の問題では，立式することができず無回答である生徒が多い。	・かっこの前にマイナスがついている場合や，移項した場合など符号が変わるケースについて授業で理解を深めさせると共に，反復練習を行う。 ・立式する問題については，図を書かせるなどし，等しい数量の関係にあるものがどれかを把握させる。授業で扱った問題でもあるため，定期的に復習する機会を設ける。
図形	・平均正答率は市よりも9.2ポイント低く，県よりも7.9ポイント低い。 ○柱体と錐体の体積の関係や，回転移動したときの角の大きさに関しては，正答率が市や県と同程度である。 ●おうぎ形の面積を求めることや作図に関しては，無回答である生徒が多く，正答率が低い。	・おうぎ形の面積を求める問題については，様々なパターンの問題を演習してきた。今後は，繰り返し問題演習を行うと共に，「公式を覚える」ではなく，「おうぎ形の面積はどのようにして求めることができるのか」という，思考力を育てる授業をしていく。
関数	・平均正答率は市よりも9.9ポイント低く，県よりも8.3ポイント低い。 ○関数の意味については，県の平均とほぼ同じである。日常生活の場面において，分かりやすい例を取り上げて指導した成果であると考えられる。 ●グラフを読み取って，比例・反比例の式を求めることに課題がある。	・比例・反比例の式が日常生活のどのような場面で使われてるかという教材を多く取り入れていく。比例・反比例の意味がしっかり理解できるように指導していく。また，練習問題を繰り返し行い，力を付けていく。
資料の活用	・平均正答率は市よりも16.1ポイント低く，県よりも13.6ポイント低い。 ○度数分布表から，資料の範囲を求める問題の正答率が最も高かった。 ●度数分布表やヒストグラムから平均値，中央値，最頻値，範囲を求めることに課題がある。	・平均値，中央値，最頻値，範囲の意味をしっかり理解していないので，理解できるまで繰り返し指導してく。また，与えられた資料から，その資料の特徴を読み取ることが苦手なので，練習問題を繰り返し行い，力を付けていく。

宇都宮市立若松原中学校 第２学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	50.0	56.6	55.8
	粒子	65.3	69.6	69.0
	生命	58.3	64.4	63.0
	地球	42.9	49.2	50.2
観点	自然事象への関心・意欲・態度	60.2	65.2	64.7
	科学的な思考・表現	46.3	52.8	52.8
	観察・実験の技能	71.0	72.0	71.2
	自然事象についての知識・理解	56.5	63.7	62.7



★指導の工夫と改善

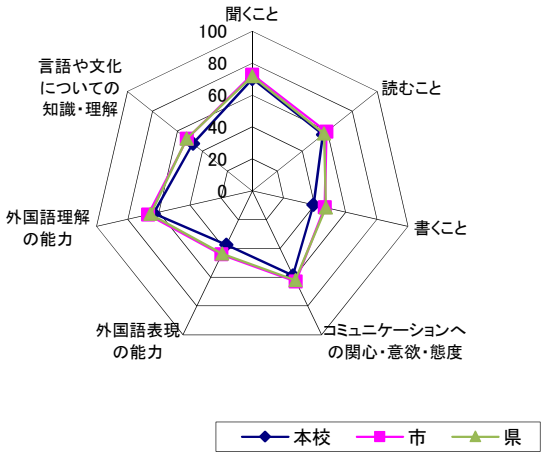
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	・平均正答率は，県の平均より低い。(−5.9ポイント) ○ばねを引く力の大きさとばねののびの関係をグラフに表したり，おもりがばねを引く力を矢印で表す問題は，県平均とほぼ同じで，実験や考察を重視した授業を行った成果であると考えられる。 ●光の性質では，スクリーンに映る実像や虚像についての理解が不足している。	・凸レンズの性質では，作図を丁寧に行わせることで，焦点距離と物体との位置関係がどのようなときに，実像や虚像が見えるのか，また像の大きさとの関係はどうなのか理解を深めさせる。
粒子	・平均正答率は，県の平均より低い。(−3.7ポイント) ○気体の性質では，発生した気体の集め方の問題は，県平均を上回っており，実験上の注意点等を丁寧に指導した結果であると考えられる。 ●水溶液の性質では，濃度の計算やグラフの読み取りの力が不足している。	・水溶液の性質では，濃度の計算練習を十分行うとともに，単に公式にあてはめて計算するのではなく，濃度の意味や考え方を十分理解させたうえで問題に取り組ませる。また，溶解度の問題では，溶解度曲線の意味をよく理解させ，水温を上げ下げすることで，溶解度が変化することや，飽和状態を超えた分が結晶として析出することなどを理解させる。
生命	・平均正答率は，県の平均より低い。(−4.7ポイント) ○植物のからだのつくりとはたらきでは，対照実験を行う理由を考える問題は，県平均を上回っており，実験の効果を検証することの重要性を丁寧に指導した結果であると考えられる。 ●植物のからだのつくりとはたらきでは，ルーペを正しく使う方法についての理解が不足している。	・植物のからだのつくりとはたらきでは，比較的使用頻度の少ない実験用具についても，なぜその方法で使わなければいけないのかを意味をきちんと伝えながら実験を行えるように支援していく。 ・植物の分離については，分類上の基準を明確に伝え，特徴を捉えながらできるようにする。
地球	・平均正答率は，県の平均より低い。(−7.3ポイント) ○火山では，岩石のスケッチの仕方については県平均を上回っており，観察したものを記録することを繰り返し行ったことで理解が深まったものと考えられる。 ●火山では，岩石の特徴から火山の形を推定したり，岩石の種類を同定したりする問題や，地層では，断層や凝灰岩の層が火山の噴火によってできることへの理解が不足している。	・岩石の特徴をもとにして岩石の種類を同定する問題については，単なる知識の習得だけでなく，思考力を高めることが必要である。授業の中では，知識の活用を図るために実際に岩石を同定することを行うことで，理解を深められるようにする。また，断層の様子の写真を提示したり，実体顕微鏡を使用して鉱物の観察を行ったりすることで，興味関心を高められるようにする。

宇都宮市立若松原中学校 第２学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	70.1	72.8	71.8
	読むこと	56.6	59.4	57.5
	書くこと	39.3	46.6	47.3
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	58.8	63.0	62.2
	外国語表現の能力	37.3	44.2	43.6
	外国語理解の能力	63.3	66.8	65.4
	言語や文化についての知識・理解	47.5	52.3	52.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○絵を適切に表している英文を聞き取ったり，英文の内容を聞き取ったりする問題の正答率は高い。 ●英文を聞き，内容を理解することはできるが，適切に応答したり，絵をもとに英語で答える力は不十分である。	・英語を使用しての文法導入，継続的なリスニングテストの実施，ALTとの協同授業などの成果がリスニング力の向上につながっており，今後更にそれらの活動を数多く取り入れていく。 ・相手に応答する力が不足しているため，教師と生徒，生徒同士の活動などでのインタラクションの機会を増やし，更には質問とその答え方の指導を十分に行っていく。
読むこと	○英文や長文を読み，内容を把握する力が少しずつ身に付いてきており，読むことの領域に関して正答率が昨年度より市や県に近づいてきた。 ○語形・語法の問題では県の正答率より3ポイントから7ポイント高くなっている。ただし，所有代名詞の問題に関しては5ポイント低くなっている。 ●対話文の流れから適切な語の組み合わせを選ぶ問題や指示代名詞の示すものを把握する問題の正答率が低い。	・語彙力が不足している生徒が多く，英文を読むことが苦手な生徒は平易な英文でさえ読み取ることができない。基本的な単語，語彙を徹底的に練習し，単語テストなどにより定着を図る。 ・本文に関する質問やT-Fテストを通して，英文を読むことに慣れさせる。また，英文の概要や要点をまとめる活動を増やし，読解力を身に付けさせる。
書くこと	○並び替えの問題では，正答率が県平均より8ポイント高いものもあるなど，授業で既習文法をフィードバックして復習活動してきた成果の一部が，言語に関する知識を伸ばしている。 ●語彙力が不足しており，テーマに沿った3文以上の英文で書く問題は，正答率が県平均を大きく下回っている。単語を正しく書かせる4題の問題でさえ，県平均と比べ約10ポイント低い。	・文法事項はある程度身に付いている生徒も多いが，基本的な単語が定着しておらず，その点が今後の課題である。授業の中で自分の考えを伝える機会を増やし，書いたものを確認させて正しく書く力を付けていく指導を行う。 ・コミュニケーションに対する意欲が低いため，積極的に英語を使う場面やスキットの作成などの活動を取り入れていく。

宇都宮市立若松原中学校 第２学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○学習についての質問の中で，肯定的回答の割合が宇都宮市や栃木県に比べて高くなっているのが「家で，自分で計画を立てて勉強をしている」「学校の宿題は，自分のためになっている」「学習して身に付けたことは，将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」「授業出わからないことがあると，先生に聞くことができる」などの質問である。学習に対する意識をしっかりともっており，家庭学習の大切さを認識している生徒が多いことが分かる。一方，「家で，学校の復習をしている」「学校の授業の予習をしている」などの項目で市や県よりも低くなっており，予習・復習やテストの見直しなどの学習を行う習慣を付け，更に自分に合った学習法を見つけていくことが，学力向上につながっていくと考えられる。
○「授業では，自分の考えを発表する機会が与えられている」「授業では，クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」「授業の中で，目標（めあて・ねらい）が示されている」「授業の最後に，学習したことを振り返る活動をよく行っている」「授業で扱うノートには，学習の目標とまとめを書いている」「授業に集中して受けている」などが市や県と比べて肯定割合が高くなっている。学力向上に向けての学校取組や授業改善が確実に浸透してきており，今後更にポイントの焦点化など工夫しながら指導を継続していく。
●「家で，学校や塾の決められた宿題の他に自分で考えた学習をしている」「疑問や不思議に思うことは，分かるまで調べたい」「難しい問題にであうと，よりやる気が出る」「本やインターネットなどを利用して，勉強に関する情報を得ている」などの項目で肯定的割合が県や市と比べて大きく下回っている。このことから生徒に自主的に取り組む意欲や探究心が不足していると思われる。「できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている」生徒は多く見られるため，課題を解決していくための学習法を身に付けさせることが，確かな学力を付けさせることと思われる。また，「新聞を読んでいる」の肯定的割合が市・県よりも低くなっている。「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」や「地域や社会で起こっている問題やできごと」も市を下回っている。視野を広くもち，知的好奇心や探究心を高めていくために社会科や総合的な学習の時間を中心に各教科で指導していく。
●「どの教科の学習が好きですか」の質問に対して，肯定割合が市や県よりも高い教科は国語，社会，美術である。他の教科については市や県を下回っている。これらの教科は学習の積み重ねの教科が多い。学習意欲を高めさせ，しっかりとした目標をもって学習に取り組むためにはどうすべきかを中学校だけでなく，地域学校園として話し合っていく。
●「自分の行動や発言に自信をもっている」「自分はよいところがあると思う」「自分のよさを人のために生かしたいと思う」などの項目で肯定割合が市・県を大きく下回っている。自分のよさに気づいていない生徒が多いと思われる。自己有用感を高める指導を工夫していきながら，自信をもたせていくことによって生活面だけでなく学習面でも意欲的な取組が増えていくと考えられる。
○「家の人は，あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」「家の人と学習について話をしている」は市・県の肯定割合を上回っており，親子で話しやすく，関係も良好な様子がうかがえる。しかし，「家での決まりや約束を守っている」の質問に対しては市・県よりも低くなっている。また同様に「学校の決まりを守っている」も市・県よりも下回っている。学校と家庭が協力，連携しながら学校教育だけでなく，家庭教育の充実を図っていくことも生徒の判断力を育んでいくと考えられる。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
ねらい・見通しの明確化と授業の工夫	授業の冒頭に本時のねらいを確認し学習の見通しを立て，授業の最後に板書を使い振り返ることで，生徒がめあてを持って主体的に学習に参加できるようにする。	「授業の中で，目標(ねらい・めあて)が示されている」の肯定割合が98.5%(県との差+2.4ポイント)，「授業の最後に，学習したことを振り返る活動をよく行っている」の肯定割合は81.0%(県との差+8.8ポイント)と高かった。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「難しい問題に出会うと，よりやる気が出る」の肯定割合は38.5%(県との差−4.9)，「疑問や不思議に思うことは，分かるまで調べたい」の肯定割合が63.4%(県との差−1.1)と低い結果であった。	課題に粘り強く取り組む生徒の育成	習得した知識・技能を活用する単元を設定し，課題に粘り強く取り組ませる。グループ活動を取り入れるなど取り組ませ方を工夫し，やり遂げさせることで達成感を味わわせるようにする。